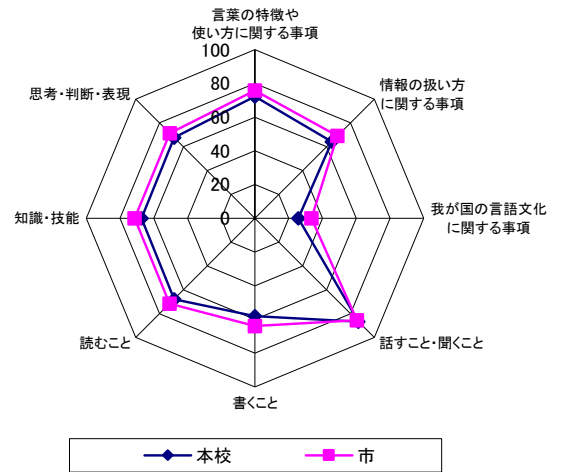


# 宇都宮市立晁宝小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	72.2	75.8	77.5
	情報の扱い方に関する事項	64.3	69.1	67.0
	我が国の言語文化に関する事項	25.7	33.5	37.2
	話すこと・聞くこと	86.7	85.5	86.5
	書くこと	58.1	63.9	65.8
	読むこと	67.9	71.6	69.5
観点別	知識・技能	67.3	71.3	72.9
	思考・判断・表現	67.7	71.3	71.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

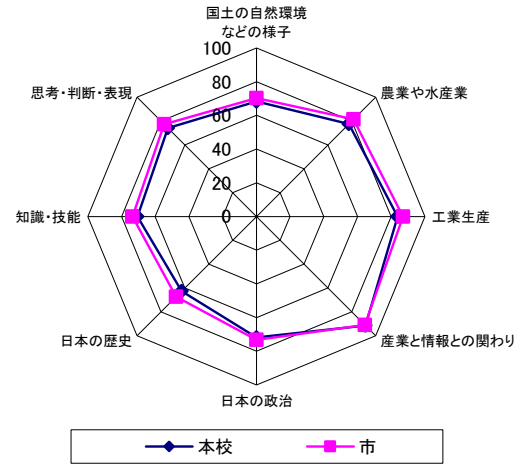
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	<p>平均正答率は、市の平均を下回った。</p> <p>○漢字を読む問題は、市の平均正答率を上回った。</p> <p>●漢字を書く問題は3問中2問で、市の平均正答率を8ポイント以上下回った。</p> <p>●文と文が正しく接続するように短文で解答する問題では、市の平均正答率を14.6ポイント下回った。</p>	<p>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</p> <p>・新出漢字の字形に注意しながら、繰り返し練習して漢字を覚えることを、朝の学習や家庭学習で継続して取り組む。また、既習の漢字は使うということが習慣付けられるように、全ての教科の授業において指導していく。</p> <p>・教材文を学習する際には、接続詞に印を付けてその役割を確認する機会を設けるなどして、接続詞の働きを意識できるようにする。</p>
情報の扱い方に関する事項	<p>平均正答率は、市の平均を下回った。</p> <p>●原因と結果の関係について回答する問題は、市の平均正答率を4.8ポイント下回った。</p>	<p>・教材文の指導の際に、「から」や「ので」といった原因を示す表現に含まれるキーワードに着目して情報の整理を行うことで、文と文との関係を正しく捉えることができるようにする。</p>
我が国の言語文化に関する事項	<p>平均正答率は、市の平均を下回った。</p> <p>●和語、漢語、外来語の言葉の組み合わせを答える問題は、市の平均正答率を7.8ポイント下回った。</p>	<p>・和語を正しく選択できず不正解になっている児童が多く見られた。新出漢字の学習の際には書き順や字形だけでなく読み方も意識的に確認し、音読みと訓読みの区別が付くようにする。その際、送り仮名の無い訓読みの漢字は注意させたい。</p>
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は、市の平均をやや上回った。</p> <p>○インタビューの内容を正しく捉え、解答する問題は、校内正答率が100%であった。</p> <p>●インタビューの内容を報告する言葉を記述する問題は、市の平均正答率を4.1ポイント下回った。</p>	<p>・聞いたことの中から、概要や話し方の工夫を聞き取る力が育ってきている。普段の授業だけでなく校外学習や外部講師の講話など幅広い機会を通して、メモを取ることに慣れさせた。</p> <p>・自分が聞こうとする意図を整理し、重点的に聞いたりメモしたりするべき内容をあらかじめ決めておくことで、効果的に聞くことができるように指導していく。</p>
書くこと	<p>平均正答率は、市の平均を下回った。</p> <p>○自分の考えとその理由を書く問題は、市の平均正答率を1.1ポイント上回った。</p> <p>●書くことに関する問題の6問のうち5問が、市の平均正答率を下回った。</p>	<p>・自分の考えとその理由を書く力は育ってきた。一方で、反論を予測し、それに対する意見を書くことに課題が見られた。テーマを決め、相手に納得してもらえるような工夫を取り入れた文章を書く機会を増やしたい。</p> <p>・字数や段落構成などの条件に合わせて文章を書くことに課題が見られた。基本的な作文の書き方を再確認し、正しく文章を書くことができるように指導する。</p>
読むこと	<p>平均正答率は、市の平均を下回った。</p> <p>○物語文の登場人物の心情について、描写を基に捉える問題は、市の平均正答率を1.6ポイント上回った。</p> <p>●物語文の登場人物の様子について、描写を基に捉える問題は、市の平均正答率を5ポイント下回った。</p> <p>●説明文の内容を叙述を基に捉える問題は、市の平均正答率を14.9ポイント下回った。</p>	<p>・物語文では、登場人物の様子を比喻表現から読み取ることに課題が見られた。比喻や擬音、ことわざや故事成語など多様な文章表現の意味や使い方を調べる時間を設け、語彙を増やすことができるようにする。</p> <p>・説明文では、段落の関係や内容を表に整理したり、重要語句に線を引いて読んだりして、述べられている内容を正しく読み取る力を高められるようにする。</p>

# 宇都宮市立晁宝小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	68.3	70.3	66.4
	農業や水産業	77.6	81.6	75.3
	工業生産	83.8	87.0	77.7
	産業と情報との関わり	91.4	91.0	81.3
	日本の政治	71.8	73.2	75.3
観点別	日本の歴史	62.7	67.4	68.5
	知識・技能	70.5	73.5	72.5
	思考・判断・表現	74.3	77.3	71.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

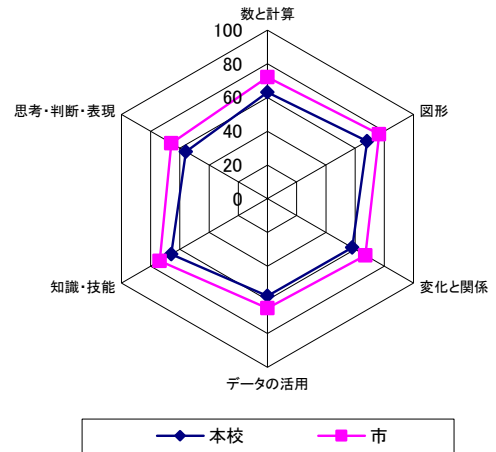
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	平均正答率は、市の平均を下回った。 ○赤道について理解しているか問う問題では、正答率は市を2.2ポイント上回り、季節風について理解しているか問う問題では、正答率は市を5.8ポイント上回った。 ●近年日本で起きた自然災害の発生場所について問う問題では、正答率は市を10.3ポイント下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・国名や海洋名、周辺の国や日本の領土の学習では、今後も地理用語を押さえるだけではなく、地図帳や地球儀を積極的に活用して理解を深めていく。 ・日本で起きている自然災害については、教科書の内容だけではなく、ニュースや新聞記事等を紹介し、より現実的な問題として考えられるようにする。
農業や水産業	平均正答率は、市の平均を下回った。 ●コメの品種改良について問う問題では、正答率は市を7.7ポイント下回った。	・身に付けた知識を生かして資料を読み取り考える問題に課題が見られた。授業で資料を提示して読み取る機会を増やし、既習事項をもとに考え、資料から分かることを表現できるように指導していく。
工業生産	平均正答率は、市の平均を下回った。 ●日本の貿易の変化について、資料をもとに表現する問題では、正答率は市を6ポイント下回った。	・帯グラフの見方の確認をしたり、2つの帯グラフを比較することで見えてくるものについてじっくり考えさせたりすることで、資料の読み取りや活用の技術を高めていく。
産業と情報との関わり	平均正答率は、市の平均とほぼ同じであった。 ○情報を生かした産業について考える問題では、正答率は市を4ポイント上回った。 ●情報の発信と受信の注意点について考える問題では、正答率は市を3.3ポイント下回った。	・生活と情報の関わりについて、インターネットの利用の仕方について課題が見られた。社会科の授業でもインターネットの正しい使い方について確認し、さらに道徳の時間等でも情報モラルについて取り上げ、意識付けを行っていく。
日本の政治	平均正答率は、市のやや平均を下回った。 ○基本的人権の尊重についての理解を問う問題では、正答率は市を8.3ポイント上回った。 ●租税の役割について問う問題では、正答率は市を8.4ポイント下回った。	・基本的人権の尊重の基本的な考え方について理解を問う問題では、よく定着が図られていた。今後も、日本国憲法の三つの原則についてもよく押さえ、それぞれの言葉と自分たちの生活との関連も考えさせていくようにする。 ・社会科の学習の中で、税金の使われ方について確認することに加え、租税教室等を活用し、税についての理解を深められるようにする。
日本の歴史	平均正答率は、市の平均を下回った。 ○江戸時代の鎖国と禁教について問う問題では、正答率は市を8.2ポイント上回った。 ●弥生時代について問う問題では、正答率は市を8.2ポイント下回った。 ●中大兄皇子が行ったことを問う問題では、正答率は市を11.4ポイント下回った。	・学習した内容が過去のものほど正答率が低い傾向にあることから、もう一度復習したり、練習問題を解いたりすることを通して、時代の流れの把握や歴史的用語の定着を図るようにする。 ・単元のまとめの学習の際に、どの時代にどんなことが起きたのか、人物がどのようなことを行ったのかなど、結び付けながらまとめられるようにする。

# 宇都宮市立晁宝小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	63.1	72.1	74.6
	図形	68.3	76.5	76.1
	変化と関係	58.0	67.1	59.7
	データの活用	57.7	65.0	64.5
観点別	知識・技能	65.9	73.8	74.7
	思考・判断・表現	55.9	65.8	61.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

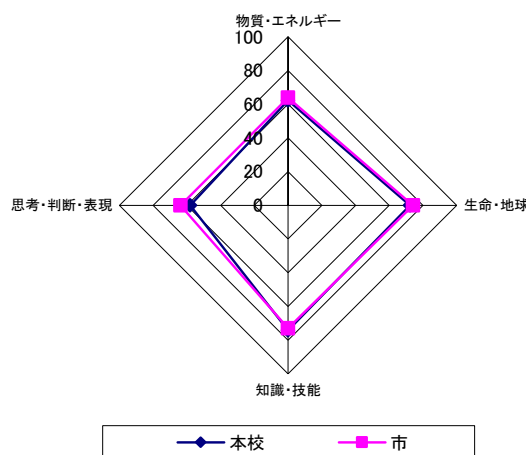
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、市の平均正答率を下回った。</p> <p>○帯分数×真分数の計算をする設問では、市の平均を0.5ポイント上回った。</p> <p>●2つの文字を使って表された式で、一方の文字の値から他方の文字の値を求める設問では、市の平均を23.1ポイント下回っている。</p>	<p>・基礎的な計算が確実に解けるように、朝の学習の時間や家庭学習等で引き続き、ドリルやプリント・AI型個別ドリルなど、計算の練習に繰り返し取り組ませる。</p> <p>・様々な問題場面や状況に応じて、必要な数量やその関係を捉えることができるように、図や式に表して考えたり説明したりする機会を増やす。</p>
図形	<p>平均正答率は、市の平均正答率を下回った。</p> <p>○半径が与えられた円の面積を求める式を理解しているかを問う設題では、市の平均値を4.6ポイント上回っている。</p> <p>●線対称な図形の対応する点についての設問では、市の平均を21.1ポイント下回っている。</p>	<p>・各単元で扱う公式を使った基本的な問題に継続的に取り組むようにする。</p> <p>・線対称の正答率が低いのは、学習後に定着していないことが考えられる。具体物などを使った実生活での場面を活用したり、ICTを取り入れ図形のもつ特徴を視覚的に理解できるような問題に取り組むことで定着を図る。</p>
変化と関係	<p>平均正答率は、市の平均正答率を下回った。</p> <p>●速さと時間から道のりを求める設問では、市の平均値を0.2ポイント下回っている。</p> <p>●単位量あたりの大きさ・速さを求める設問では、市の平均値を最大で14.7ポイント下回っている。</p>	<p>・速さ、道のり、時間の関係と、求める式について再度確認し、問題場面に応じて、どの数量を求めるのかを意識させた学習を取り入れていく。</p> <p>・速さでは、単位の換算につまずく児童が多く見受けられる。つまずきの多いところを授業の中でくり返し取り上げ、単位量あたりの概念についての理解を図るようにする。</p> <p>・「もとにする量」「比べられる量」を確認させたり、児童が具体的に直感しやすい例を取り上げたりする。</p>
データの活用	<p>平均正答率は、市の平均正答率を下回った。</p> <p>●ドットプロットから、最頻値を読み取る設問では、市の平均値を13.1ポイント下回っている。</p>	<p>・数量関係を理解できるよう、中学年からの既習事項である数直線等を利用して整理することの指導に力を入れる。また、問題文を読んで数量関係を把握することに難があり、他教科の学習や読書指導を通して「読解力」の育成に努める。</p> <p>・データの見方では、テスト点数や身長など身近な例で説明したり、実際に自分でドットプロットを描いたり、異なるグループのデータを比較することで特徴の違いを明確にしながら理解を深めていく。</p>

# 宇都宮市立晁宝小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	62.2	63.8	61.6
	生命・地球	72.3	74.1	73.3
観点別	知識・技能	74.2	73.0	71.3
	思考・判断・表現	58.0	63.8	62.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>平均正答率は、市の平均を下回った。</p> <p>○「もののとけ方」のうち、水よう液の定義に関する問題では、市の平均より11.5ポイント高い。</p> <p>●「ふりこのきまり」のうち、ふりこの周期を求める問題では、市の平均より13.4ポイント低い。</p>	<p>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題を基に予想し、実験や観察の方法を考える活動を重視し、自分で課題を解決できるように助言しながら問題解決の力を伸ばしていく。</li> <li>・実験や観察の方法や必要な道具についても児童に考えさせるとともに使い方や注意点を確認する。</li> </ul>
生命・地球	<p>平均正答率は、市の平均を下回った。</p> <p>○「月と太陽」のうち、月の形を推測する問題では、市の平均より7.5ポイント高い。</p> <p>●「生物と環境」のうち、食物連鎖に関する問題では、市の平均より9.4ポイント低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験や観察の結果から考察する活動の時間を確保するとともに映像資料等を効果的に活用し、科学的な思考力を高める。</li> <li>・単元のまとめでは学習した内容をしっかり確認し、復習問題などを通して基礎的な内容の定着を図る。</li> </ul>

## 宇都宮市立晃宝小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
○基本的な学習習慣の定着のための指導の徹底	○学習用具の確実な準備や学習のきまり、発表の仕方、話を聞く態度などの学習態度や学習技能を育てる指導を学校全体で取り組んでいる。	○6学年のアンケート結果「授業の始まりには席についている。」「授業に必要な学習用具は必ず持ってきている。」「先生や友だちの話を、最後まできちんと聞いている。」の肯定的回答はいずれも9割を上回っており、昨年度から大きく改善した。
○主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業の実践に関する研究	○主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業の改善を学校全体で研究している。	○「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる。」の肯定的回答は7割程度であった。また、「学習していて、おもしろい、楽しいと思うことがある。」の肯定的回答は、昨年度から10ポイント下回った。

### ★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

- ・家庭学習に取り組む時間が、どの学年でも市の平均よりも短いことから、学習の手引きをもとに、宿題や自主学習を活用し、家庭とより連携して学習習慣が身に付くように支援していく。
- ・当たり前のことを当たり前にやり切る姿勢を育てることで、学習効果や意欲を高めていくようにする。